

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月5日

上場会社名 アズビル株式会社

上場取引所 東

コード番号 6845

URL <http://www.azbil.com/jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 曾禰 寛純

問合せ先責任者 (役職名) 理財部長

(氏名) 熊田 大史

TEL 03-6810-1009

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	169,642	8.0	4,046	△24.1	5,035	△12.4	2,632	2.1
25年3月期第3四半期	157,028	1.4	5,331	△18.4	5,751	△13.3	2,577	△20.0

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 5,603百万円 (116.4%) 25年3月期第3四半期 2,589百万円 (△2.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	35.64	—
25年3月期第3四半期	34.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	232,960	141,525	60.1
25年3月期	243,418	141,197	57.1

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 139,930百万円 25年3月期 139,041百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	31.50	—	31.50	63.00
26年3月期	—	31.50	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	31.50	63.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	250,000	9.8	13,700	2.2	13,200	△9.4	7,800	△6.1	105.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	75,116,101 株	25年3月期	75,116,101 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	1,263,049 株	25年3月期	1,262,123 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	73,853,485 株	25年3月期3Q	73,854,457 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

●季節的変動について:

azbilグループの売上は、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向があります。また、第2四半期連結会計期間よりも第4四半期連結会計期間に売上が集中する傾向があることから、同様の理由により、上期(第1四半期連結会計期間と第2四半期連結会計期間の合計)の利益は、下期(第3四半期連結会計期間と第4四半期連結会計期間の合計)と比べて低くなる傾向があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項.....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動.....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用.....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示.....	5
3. 四半期連結財務諸表.....	6
(1) 四半期連結貸借対照表.....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間.....	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間.....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	10
(継続企業の前提に関する注記).....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	10
(セグメント情報等).....	10
4. 補足情報.....	12
受注の状況.....	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和策を背景に、緩やかに回復してまいりました。海外経済におきましては、中国等の新興国では経済成長に不透明感があるものの、足元において、米国経済が回復傾向に転じ、欧州においても景況感が改善してまいりました。

azbilグループを取巻く事業環境におきましても、市場によって跛行性があるものの、改善の兆しが見られるようになってまいりました。

このような中、azbilグループは、中期経営計画の目標達成に向けて、3つの基本方針、「技術・製品を基盤にソリューション展開で『顧客・社会の長期パートナー』へ」、「地域の拡大と質的な転換による『グローバル展開』」、「体質強化を継続的に実施できる『学習する企業体』を目指す」を掲げ、3つの成長事業領域（次世代ソリューション、エネルギーマネジメント、安心・安全）に向けて、製品・技術・サービスを活用したazbilグループならではのソリューション展開を国内外で進めております。

当第3四半期連結累計期間における受注高は、新たなソリューション展開として第1四半期連結会計期間に「ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)事業[※]」を立ち上げ、アズビルテルスター有限会社及びその子会社を新規連結したライフオートメーション(LA)事業が大きく増加したことに加え、ビルディングオートメーション(BA)事業及びアドバンスオートメーション(AA)事業も伸長し、全体として前年同期比12.3%増加の1,958億8千3百万円となりました。売上高につきましても、同様にLA事業を中心に、3つの事業それぞれで増加し、全体として前年同期比8.0%増加の1,696億4千2百万円となりました。

なお、海外売上高につきましても、地域の拡大と質的なグローバル化の展開を進めた結果、為替による影響も含めて、従来地域・市場において大きな増加が見られた他、LA事業に欧州、中南米、アジア地域に展開するLSE事業が加わったことにより倍増いたしました。

損益面につきましても、各事業が増収し、体質強化においても着実な進捗を見ることができましたが、退職給付費用の一時的な増加に加えて、複数企業を新規連結したことによるのれん償却費用の増加及び新規連結を含む子会社の利益貢献が限定的だったことにより、営業利益は40億4千6百万円（前年同期比24.1%減）となりました。経常利益は、為替差益の計上を主因に営業利益を上回る50億3千5百万円（前年同期比12.4%減）となり、四半期純利益は26億3千2百万円（前年同期比2.1%増）となりました。

azbilグループの売上は、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向があります。また、第2四半期連結会計期間よりも第4四半期連結会計期間に売上がより集中する傾向があることから、同様の理由により、上期（第1四半期連結会計期間と第2四半期連結会計期間の合計）の利益は、下期（第3四半期連結会計期間と第4四半期連結会計期間の合計）と比べて低くなる傾向があります。

※ 平成25年1月、製薬工場、研究所、病院向けの製造装置、環境装置等の開発・製造・販売を行っている Telstar, S.A.（現：アズビルテルスター有限会社、所在地：スペイン）に資本参加し、子会社化いたしました。人の健康に貢献する市場に向け、「オートメーション技術に着想を得た、次世代の製造装置と環境システムの統合ソリューション」を提供する「LSE事業」を新たに立ち上げ、展開を開始いたしました。

各セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

ビルディングオートメーション (BA) 事業

主に大型再開案件の切れ間にある新設建物分野での減少により国内売上が減少したものの、海外で増収となったことにより、BA事業全体として売上は微増となりました。

国内市場におきましては、納入実績の蓄積をもとにサービス事業が引続き着実に推移したほか、節電・省エネ、すなわちエネルギーマネジメントに対する需要が顕在化しており、長年におよぶ現場でのデータ蓄積と施工力を強みとする省エネ提案関連の伸びにより、既設建物の分野が増加いたしました。一方、前記のとおり新設建物の分野での売上が減少し、国内全体では減収となりました。

海外市場におきましては、ローカル建物の開拓に注力しており、この施策が奏功し、売上が伸長いたしました。施工・エンジニアリングに関わる会社を新規連結した影響により、中国で売上が大きく拡大した他、シンガポール、ベトナム等の地域におきましても売上が伸長いたしました。

この結果、BA事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、705億2百万円と前年同期に比べて0.9%の増加となりました。損益面につきましても、退職給付費用の一時的な増加やのれん償却費用を含む新規連結の影響等があるものの、施工でのコスト改善やジョブ管理の強化により収益性が改善したことにより、セグメント利益（営業利益）は、前年同期並みの33億8千4百万円となりました。

アドバンスオートメーション (AA) 事業

国内製造業の設備投資低迷の影響を受け、国内売上が減少したものの、海外で増収となったことにより、AA事業全体としては増収となりました。

国内市場におきましては、工業炉や半導体等の装置メーカーの市場において需要が回復傾向にあります。こうした市場動向に加えて、新製品の投入やソリューションでの事業開拓の取組み、新規連結の影響等から、装置メーカー向けの各種制御機器の売上は、増加いたしました。一方、LNGなどを含む各種エネルギー市場や安定操業に向けた投資、更新需要等は底堅いものの、これまで堅調であった高機能素材をはじめとした化学市場等において新規の設備投資が抑制されました。このため、更新需要の掘り起こしに取組みましたが、新規設備投資抑制の影響を補うに至らず、各種プラント向けの現場型計器やコントロールバルブ、システム製品の売上が減少し、国内全体でも減収となりました。

海外市場におきましては、欧米における装置メーカー向け制御機器の販売拡大に加えて、流量計の開発・販売会社の新規連結及び為替の影響もあり、各地域で売上が増加、海外全体として増収となりました。

この結果、AA事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、637億7千9百万円と前年同期に比べて2.3%の増加となりました。セグメント利益（営業利益）は、経費の効率的使用、抑制に努めたものの、国内での減収及び退職給付費用の一時的な増加等もあり、14億7千9百万円と前年同期に比べて32.7%の減少となりました。

ライフオートメーション (LA) 事業

ガス・水道メータの分野におきましては、エネルギー供給ラインでのソリューション展開等に取り組んでおりますが、需要サイクルの影響からガスメータの売上が減少いたしました。水道メータについては、採算性の改善及び市場深耕に向けた取組みにより、売上は減少となりましたが、収益性は改善いたしました。

健康福祉・介護の分野におきましては、高齢化の進展に伴い市場は拡大しておりますが、地方自治体における福祉関連予算の削減等により、厳しい事業環境が続いております。これに対処するため、営業拠点の拡大、サービスメニューの拡充等の施策に取組み、売上は増加いたしました。

住宅用全館空調システムの分野におきましては、引続き営業・開発体制の強化に取組み、住宅メーカーと個人施工双方に向けた積極的な営業施策を展開した結果、売上が伸長いたしました。

第1四半期連結会計期間より新たに加わったライフサイエンスエンジニアリング (LSE) の分野におきましては、対象とする海外の製薬市場が好調に推移しており、こうした市場に向けて各種装置等を提供するアズビルテルスター有限会社及びその子会社の新規連結により売上は大きく増加いたしました。

この結果、LA事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は361億5千9百万円と前年同期に比べて40.0%の増加となりました。損益面では、ガス・水道メータの分野で収益性が改善いたしました。LA事業全体では、事業拡大のための体制整備費用やのれん償却費用を含む新規連結による影響により、セグメント損失（営業損失）は8億3千2百万円（前年同期は2億6千万円のセグメント損失（営業損失））となりました。

その他

その他の当第3四半期連結累計期間における売上高は5千3百万円（前年同期は5千9百万円）となり、セグメント利益（営業利益）は1千6百万円（前年同期は8百万円のセグメント利益（営業利益））となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産の状況は、前連結会計年度末に比べ104億5千8百万円減少し、資産合計で2,329億6千万円となりました。これは主に、株式相場の上昇により投資有価証券の時価が27億7千8百万円増加したものの、売上債権が125億3千4百万円減少したことによるものであります。

(負債の状況)

当第3四半期連結会計期間末の負債の状況は、前連結会計年度末に比べて107億8千6百万円減少し、負債合計で914億3千5百万円となりました。これは主に、仕入債務が64億2千1百万円減少したことに加え、法人税等の支払により未払法人税等が45億7千7百万円、賞与の支給により賞与引当金が33億7千1百万円減少したことによるものであります。

(純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の純資産の状況は、前連結会計年度末に比べて3億2千7百万円増加し、1,415億2千5百万円となりました。これは主に、配当金の支払により利益剰余金が減少したものの、四半期純利益の計上及びその他有価証券評価差額金が増加したことに加え、為替換算調整勘定が増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の57.1%から60.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるazbilグループの業績は、事業によって若干の跛行性があるものの、平成25年11月1日に発表した業績予想の想定範囲内で推移しております。従いまして、通期の業績予想につきましても、前回予想のとおりとし変更はいたしません。

政府の政策等により国内経済は緩やかな回復傾向が続くことが予想され、各種景気指標にも先行きに明るい兆しが見られるようになってまいりました。azbilグループといたしましては、前述の3つの基本方針のもと、中長期的な成長に向けた事業構造の変革と体質強化に継続して取り組むとともに、こうした事業環境の変化を着実に捉え、業績予想達成に向けた売上・利益の拡大施策を着実に実行してまいります。

なお、業績予想等は、当社が現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間より、アズビルブラジル有限会社は重要性が増したため連結の範囲に含めております。

また、第1四半期連結会計期間において、アズビル ロイヤルコントロールズ株式会社を存続会社、アズビル商事株式会社を消滅会社とする吸収合併を行い、アズビル商事株式会社を連結の範囲から除いております。なお、アズビル ロイヤルコントロールズ株式会社は、平成25年4月1日付で、アズビルトレーディング株式会社に商号変更いたしました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

無

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	48,411	47,619
受取手形及び売掛金	88,874	76,340
有価証券	13,251	11,105
商品及び製品	4,186	4,674
仕掛品	5,263	8,859
原材料	7,053	7,719
その他	15,036	13,581
貸倒引当金	△362	△544
流動資産合計	181,714	169,356
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,133	12,788
その他(純額)	11,543	11,551
有形固定資産合計	24,677	24,339
無形固定資産		
のれん	9,662	8,452
その他	2,963	4,328
無形固定資産合計	12,625	12,781
投資その他の資産		
投資有価証券	15,304	18,082
その他	9,535	8,660
貸倒引当金	△438	△259
投資その他の資産合計	24,401	26,483
固定資産合計	61,704	63,604
資産合計	243,418	232,960
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	40,548	34,127
短期借入金	13,308	15,271
未払法人税等	5,625	1,048
賞与引当金	7,838	4,466
役員賞与引当金	96	57
製品保証引当金	583	575
受注損失引当金	443	434
その他	14,384	16,245
流動負債合計	82,828	72,226

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
固定負債		
社債	90	60
長期借入金	4,441	3,141
退職給付引当金	12,719	13,801
役員退職慰労引当金	105	106
その他	2,036	2,099
固定負債合計	19,393	19,208
負債合計	102,221	91,435
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,522	10,522
資本剰余金	17,197	17,197
利益剰余金	111,141	109,237
自己株式	△2,644	△2,646
株主資本合計	136,217	134,311
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,776	5,735
繰延ヘッジ損益	0	2
為替換算調整勘定	△952	△119
その他の包括利益累計額合計	2,824	5,618
新株予約権	2	2
少数株主持分	2,152	1,592
純資産合計	141,197	141,525
負債純資産合計	243,418	232,960

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	157,028	169,642
売上原価	104,013	112,218
売上総利益	53,015	57,424
販売費及び一般管理費	47,684	53,377
営業利益	5,331	4,046
営業外収益		
受取利息	97	136
受取配当金	272	284
為替差益	354	887
不動産賃貸料	40	39
貸倒引当金戻入額	—	5
その他	112	127
営業外収益合計	876	1,479
営業外費用		
支払利息	70	325
コミットメントフィー	18	15
不動産賃貸費用	63	48
事務所移転費用	24	28
貸倒引当金繰入額	245	—
持分法による投資損失	—	4
その他	32	67
営業外費用合計	455	490
経常利益	5,751	5,035
特別利益		
固定資産売却益	186	4
受取補償金	—	506
投資有価証券売却益	0	41
特別利益合計	186	552
特別損失		
固定資産除売却損	30	31
減損損失	74	29
事業再編損	—	139
投資有価証券売却損	—	18
投資有価証券評価損	11	1
特別損失合計	116	220
税金等調整前四半期純利益	5,822	5,367
法人税、住民税及び事業税	1,270	1,540
法人税等調整額	1,788	1,216
法人税等合計	3,059	2,756
少数株主損益調整前四半期純利益	2,762	2,611
少数株主利益又は少数株主損失(△)	185	△20
四半期純利益	2,577	2,632

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,762	2,611
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△161	1,959
繰延ヘッジ損益	221	1
為替換算調整勘定	△233	1,030
その他の包括利益合計	△173	2,992
四半期包括利益	2,589	5,603
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,413	5,425
少数株主に係る四半期包括利益	176	177

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	ビルディング オートメーシ ョン事業	アドバンスオ ートメーショ ン事業	ライフオート メーション事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	69,642	61,614	25,722	156,978	49	157,028
セグメント間の内部売上 高又は振替高	202	728	102	1,034	9	1,043
計	69,845	62,342	25,824	158,012	59	158,072
セグメント利益又は損失(△)	3,386	2,198	△260	5,324	8	5,333

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業等が含まれておりま
す。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当
該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	5,324
「その他」の区分の利益	8
セグメント間取引消去	△2
四半期連結損益計算書の営業利益	5,331

当第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	ビルディング オートメーシ ョン事業	アドバンスオ ートメーショ ン事業	ライフオート メーション事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	70,342	63,196	36,055	169,594	48	169,642
セグメント間の内部売上 高又は振替高	160	582	104	847	5	852
計	70,502	63,779	36,159	170,441	53	170,495
セグメント利益又は損失 (△)	3,384	1,479	△832	4,031	16	4,048

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業等が含まれておりま
す。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当
該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	4,031
「その他」の区分の利益	16
セグメント間取引消去	△1
四半期連結損益計算書の営業利益	4,046

4. 補足情報
受注の状況

報告セグメント	前第3四半期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	増 減	
	受注高 (百万円)	受注高 (百万円)	受注高	
			金額 (百万円)	率 (%)
ビルディングオートメーション事業	83,918	86,899	2,980	3.6
アドバンスオートメーション事業	65,366	70,310	4,944	7.6
ライフオートメーション事業	26,178	39,996	13,817	52.8
報告セグメント計	175,463	197,205	21,741	12.4
その他	58	53	△4	△8.5
消去	△1,057	△1,375	△318	—
連結	174,465	195,883	21,418	12.3